

コロナ今年最多の患者数…流行株「ニンバス」知っておきたい症状と対策

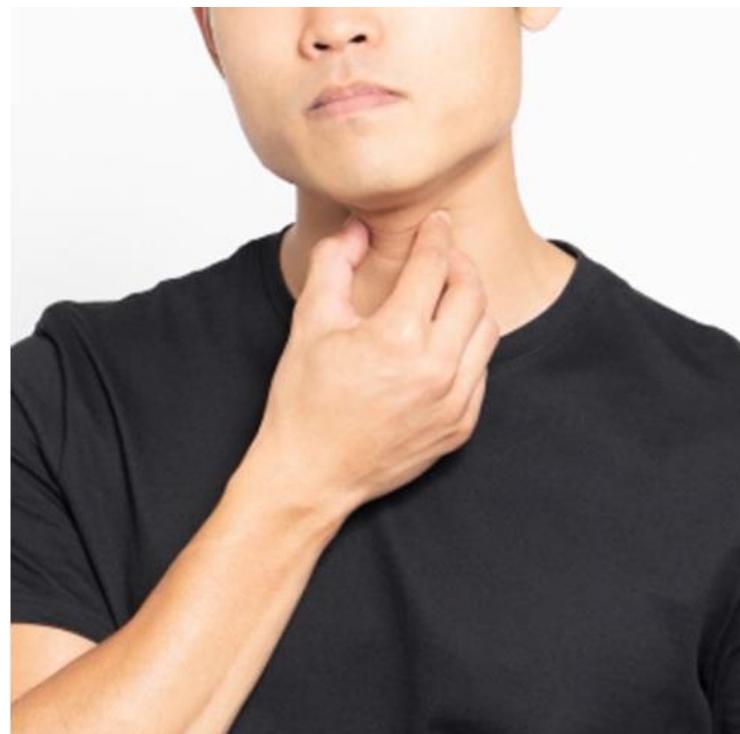
9/09 日刊ゲンダイ

→強い喉の痛みが特徴

新型コロナの感染者数が各地で今年最多を記録——。このような報道が相次いでいる。いま流行の「ニンバス」は強い喉の痛みが特徴だとうが、実際はどうなのか？ 池袋大谷クリニック・大谷義夫院長（呼吸器内科専門医）に話を聞いた。

■従来株との違いは？

「ニンバスの症状として、報道では『カミソリやガラス片をのみ込んだような激しい喉の痛み』『痛くて水を飲み込むも困難』などと表現されていますが、臨床現場で患者さんを診ている立場からすると、それらは言い過ぎではないかと感じています」（大谷院長=以下同）



気象用語で「嵐雲」を意味するニンバスは、6月中旬から流行が報告されている。

新型コロナはさまざまな変異株が確認されており、2021年末以降はオミクロン株に切り替わっている。ニンバスは、オミクロン株の一種だ。

オミクロン株の前に主流だったデルタ株は、肺の細胞にある受容体を通して侵入することが多く、高齢者や基礎疾患がある人では肺炎を起こし、それが重症化するケースもあった。また、デルタ株では味覚障害や嗅覚障害を訴える人もかなりいた。

「これに対し、ニンバスを含むオミクロン株の主な症状は、喉の痛み、咳、発熱です。感染力は強いといわれていますが、比較的軽症。症状がなく、感染に気づいていない方も多いのではないでしょうか。味覚症状や嗅覚症状も、あまり耳にしません」

大谷院長が強調するのは「コロナは呼吸器感染症。若い方では風邪症状だが、高齢者は危険を伴う感染症」ということだ。風邪は一般的に軽症で大騒ぎする病気ではないが、「高齢」「基礎疾患あり」「疲労などで免疫力低下」といった条件が重なれば、重症化する恐れがある。

対策としては、この5年間やってきたことを続けるまでだ。つまり、屋内の人混みや、換気が不十分な空間ではマスクをつける。部屋の窓を時々開け、換気を行う。指先、手首までの手洗いを心掛ける。感染しても重症化しないように、食生活や睡眠に気をつけ、免疫力アップを心掛ける。

■もしかして？と思ったら

もし、喉の痛み、咳、発熱と症状が出て、コロナかどうか気になるようなら？

「コロナウイルスの抗原検査キットがドラッグストアで購入できます。陽性という判定が出ても、風邪とほぼ変わらぬ症状であれば、自宅で安静にして過ごしてください。同居家

族がいる場合は、うつさないように距離を十分に置くようにしてください」

ただし、高齢者や基礎疾患のある人だけでなく、非高齢者でも高熱が続いたり咳が何日も止まらないといった場合は、重症化する前に医療機関を受診した方がいい。オンライン診療もあるので、まずは問い合わせを。

高額ではあるが、ゾコーバやパキロビッドといったコロナウイルスの増殖を抑える薬もある。

「患者数が今年最多を記録」という報道でコロナに目を向けがちだが、これからシーズンに感染の流行が懸念される病気にも目を向けたい。

「ひとつは、RSウイルス感染症です。以前は秋に流行が多く確認されていましたが、夏に感染のピークに達するケースも報告されています。RSウイルス感染症は特効薬がなく、基本は対症療法です。高齢者では肺炎を起こし、重症化すれば命にかかわりかねない。大人向けと妊婦向けのワクチンがあり、大人向けでは主に60歳以上を対象に、23年と24年にワクチンが承認されています。学会でもRSウイルスワクチンの接種を高齢者に対し推奨しています」

学会が高齢者に対して推奨しているワクチンには他に、肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチン、コロナワクチンがある。不活化ワクチンは同時接種が可能だが、副反応を考慮して、接種スケジュールは医師と相談するのが望ましい。肺炎球菌・インフルエンザワクチンは公費助成の対象としている自治体がある

なお、コロナワクチンに関しては、昨年に続き、今年10月から65歳以上を対象に定期接種が始まる予定だが、9月3日現在、詳細は決まっていない。

一方、アメリカの保健福祉省（日本の厚労省のような機関）は「新型コロナの感染症を効果的に予防できないことを示すデータがある」として、メッセンジャーRNAワクチンの開発を段階的に終了すると発表している。